
男女共同参画・若手支援委員会企画シンポジウム

20代, 30代を駆け抜けて：伝えたいこと, 聞きたいこと

オーガナイザー：日本生物物理学会 男女共同参画・若手支援委員会

Organizers: Promotion of Gender Equality and Young Researchers Committee

日時：9月26日(木) 11:30～12:45 (バイオフィジックスセミナーの時間帯)

会場：A会場 (サミットホール天蘭)

言語：日本語

昼食：お弁当とお茶を無料で提供いたします。ただし、数に限りがあります。

形式：プレゼンテーションとグループディスカッション

司会：須藤雄気 (岡山大学)

発表者：酒井佳寿美 (京都大学), 田中俊一 (京都府立大学), 寺川剛 (京都大学) (当日変更可能性あり)

概要：この数十年、大学院重点化や法人化などで学生を含めた若手研究者の環境は大きく変化し、博士課程入学者の増加 (とその後の減少)、任期付きポストの増加などがおこりました。また、社会環境の変化により、企業での研究環境も大きく変動しています。一般に、現場では20～30代の方々の活躍が重要ですが、結婚や子育てなど生活面において大きく変化する時期と重なるため、大学や社会状況が急速に変化する中で、自身の生活と研究者としてのキャリアアップをどう両立していくかが大きな課題となっています。

本企画シンポジウムでは、はじめに、30代、40代の多様なキャリアパスを持つ3名の発表者の方に、各人15分程度、ターニングポイント、重要だった選択など、研究者としてどのようにキャリアアップしてきたかをお話しいただきます。また、生活とどのように両立してきたかについてもお話しいただきます。

酒井博士は、大学卒業後メーカーに勤務され、結婚を経て、大学でプロジェクト技術員として勤務した後、大学院で博士課程を取得され、現在ポスドクをされています。

田中博士は、博士課程を修了した後、ポスドクとして一年間研究、日本企業で二年間勤務、米国大学で四年間研究 (当時所属企業から出向)、米国企業で一年間勤務、その後アカデミアに戻り、現在は准教授として働かれています。2男1女の3児のパパで、中間反抗期を迎えた長男と次男に悪戦苦闘中とのことです。

寺川博士は、博士課程を修了した後、海外でポスドクをされて、現在は助教をされています。また、夫婦ともに研究経験があり、1児のパパになります。

3名からのお話を拝聴した後、参加者全員で、興味ある議題に関してグループになり、グループディスカッションを行います。経験談や現在抱えている問題点などを共有することによって、今後のキャリアプランのなんらかの参考になればと考えています。学生、若手研究者の方の参加を歓迎します。また、ご自身のご経験をお話していただく、幅広い年齢の研究者の方の参加も歓迎いたします。部屋には、ジョイントマットスペースを用意しております。お子様連れの方も、お子様とお昼を食べる感覚でご参加いただければと存じます (お子様のお昼は各自ご持参下さい)。